

問答形式による、「最終版」作成に向けての重要論点整理

⑨ 改めて、「記紀」をどう読み込めばよいのか？編纂の意図とか、その関係等は？!

- I:であれば、それらに関わって、改めて、「記紀」をどう読み込めばいいのか？そしてまた、それらの編纂の意図とか、あるいはその関係とか？その具体（詳細）が、さらに分かってくるのではないのか？そこから、「記紀」、とりわけ『日本書紀』の捏造とか、粉飾の痕跡等がかなり見えてくるということになりませんか？
- D:確かに!そして、正式な?「国史」としての『日本書紀』に、私書（秘書?）としての『古事記』は、可能な限りそれへの不満とか、隠された正義（正統性?）とか、言い換えれば真実を…?だが、それは、婉曲に書き記そうとした（攻撃されたら大変なことになるから?）、そういうことだったのではないかとかね?!
- I:『古事記』については、撰者の多氏（「太安万侶」及び子孫の「多人長」）の思い、あるいは秘かな告発だった、そういうことですよ?
- D:そういうことです!それらについては、「天の書/地の書」あるいは「国外向け/国内向け」というような評価もあるようですが、それは、あくまでも、結果的にそうなった?そのように思います!ただし、そうした「国史編纂」の必要性は、それ以前の「天武天皇」の時に意識されたものですので、その内容自体は、その時々状況によって、かなりの加除修正はなされている?と言うより、藤原・持統体制になって大幅な改編?が施された?!
- I:極端に言えば、太（多）氏は、その辺りを危惧（立腹?）し、糾弾?したとも言える?しかし、それは、あからさまには言えなかった?だから、半ば私書（秘書?）として、それを書き記した?そういうことですよ?!
- D:ええ、そういうことだと思います!ただし、いずれにしても、それらは、ある意味自家に都合のいい?寄せ集めの真実とも言えるものですので、全体を通しての史実ではない!したがって、そのすべてが真実だと思っただけではない!改めて、そういうことになるわけです!
- I:だから、その他のツール、アプローチの方法が、一方で重要となるということでしたよね?
- D:そういうことですよ!そこにどのような史実が投影されているのかは、まずは分からないわけですから、それを推測?する文献や史料に頼らざるを得ないということになります!もちろん、その土地の言い伝え等も、それなりの参考となるでしょうし、「金石文」と呼ばれるようなものがあれば、ほとんど解釈の恣意を許しません?!つまり、誰かの書き換え等はないということです!
- I:したがって、そこでは、どのような史実（物語?）があったのか?そこをきちっと突き止めているかどうか、改めて重要となるということですよ?
- D:そういうことで言うと、氏族・勢力的には、北部九州はもちろんですが、出雲、尾張、近江、そして、「武内宿禰系」の蘇我、葛城、そして紀（木）等が、「記紀」の裏側に封じ込まれていることは明らかなのですが、まさに史実?としては、それは、どういうことであったのか?そこが知りたいということなのです!
- I:何とか、新たな突破口が見つからないのですかねえ?
- D:ただ、改めて、新たな突破口となるのではないかと思います!始めていることも、ないわけではないのです?!
- I:それは、どういうことですか?
- D:実は、「物部氏」と「紀（木）氏」との関係ということも言えますが、例の「瀬戸内海航路」の話です!「藤井耕一郎」という人の解明によりますと、そこには山陽沿岸のルートと四国沿岸のルートの二つがあり、前者が「物部系」、後者が「紀（木）系」だったのではないかと!ということです!ちなみに、後者が、実は「武内宿禰系」を指しているということなのです!
- I:具体的には、それは、どういうことになりますか?
- D:そうですね!最初は（大きくは）、日本海側と瀬戸内海側のおそらくそこに関わる「海人族」同士の戦い（主導権争い）で、瀬戸内海側の氏族・勢力が勝利し、その後、その瀬戸内海側の氏族・勢力が、さらなる主導権争いを演じ、最終的には、山陽沿岸のルートを支配していた氏族・勢力が、全体の覇を成した!もちろん、前者が、「高天原系」とされた氏族・勢力であったことは言うまでもありません?!
- I:もし、そうであれば、最初の頃に言っていた、「伽耶（新羅）系」と「百濟系」のつながりというか、関係が、その二つのルートに関わる氏族・勢力と対応させられるのではないですか?
- D:もちろん、私もそのように睨み始めていますが、果たしてどうなるのか?
- I:多少弱気?を感じますが、そこで、件の「武内宿禰（系）」の謎も、かなり解けてくるのではないですか?
- D:おそらくそういうことでしょうが、実は、そこに、かの「倭の五王」が絡んでくるのですよ!「武内宿禰」のことは当然ですが、そこに「神功皇后（新羅系）」、「応神天皇（百濟系?）」、そして「住吉大神（物部系?）」、さらには「氣比大神（ツガアラシト→天日矛?）」等が絡んでくるのです!ただし、そこでの「物部氏」と「紀（木）氏」との関係は、それらの錯綜?を、かなりの程度解きほぐすものであるように感じます?!